

ラウンドテーブルディスカッション

情報社会を生き抜くためのデジタル時代の教育のあり方と課題
～子どもの IT 端末との付き合い方と学びはどうあるべきか～

開催日 平成 30 年 12 月 15 日 (土) 14:30～17:30

会 場 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

(東京都港区六本木 6-15-21 ハークス六本木ビル 2 階)

<http://www.glocom.ac.jp/access>

実施要領

平成 30 年 12 月

日本教育情報化振興会
教育 ICT 課題対策部会

1. 開催趣旨

これまで電子黒板などの大型提示装置、指導者が提示で使う指導者用デジタル教科書の導入が進められてきましたが、文部科学省は2020年施行の新学習指導要領でも明確に学校での学習者用端末整備推進を求めている、児童生徒のより主体的な思考、他者との対話・連携による協働的な活動、物ごとや情報の本質を深く掘り下げる活動において、IT端末は子どもの能力の幅を拡げるために必要不可欠なツールとして位置付けています。

学校では徐々に学習者用端末の導入が始まっていますが、それを子どもたちがどのように使うのか、どのような効果を目指すのか、多くの実践と最適な環境の模索が続けられているものの、方法も質もまちまちで手法が確立されているとは言えず、学習者が自分のために使うのか、学校が授業のために使うのかなどの考え方も異なります。社会の情報化が目まぐるしく進むなかで学校や家庭が子どもにIT端末をどう使わせるべきなのか、今回は当部会の過去イベントでの議論も踏まえながら検討します。

一方で、IT端末を子どもに与えるにあたって大人の心配の種になるのはIT端末への過度な依存です。スマホ依存、ネット依存、ゲーム依存は浪費的な時間の使い方に繋がり生活や学習への影響も少なくなく、重度の依存は本人や家族にとって重大な事態を引き起こす場合さえあります。

子どもが自分を高めるための主体的・発展的な利用と、依存症の危険性をはらむ消費的遊興利用にどう折合いをつけさせるか、自ら節度をもって使う態度を彼らの身につけることは可能なのか、「デジタル・シティズンシップ」を題材に採り入れつつ検討します。

2. 日程と場所

平成30年12月15日（土）

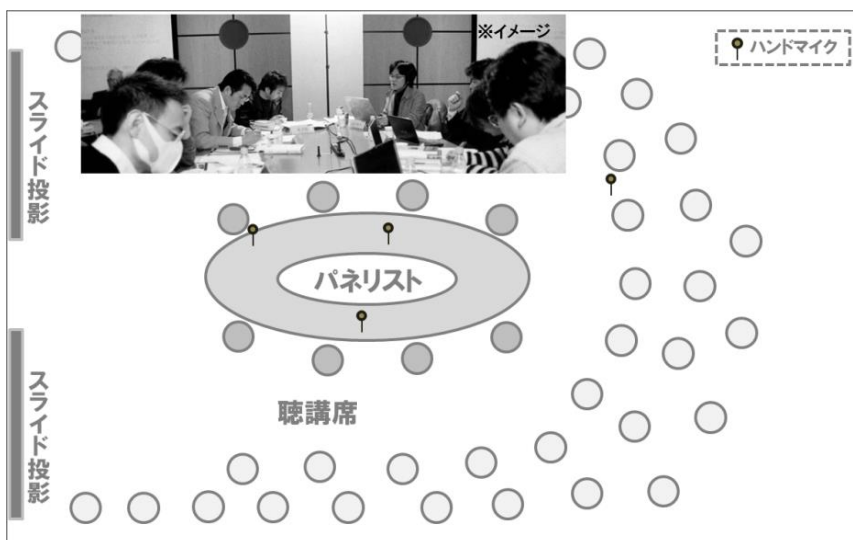
プログラム	参加費	参加想定	時間	場所
会議	無料	パネル8名 聴講70名	14:30～17:30 (受付:14:00～)	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) ホール
懇親会	4,000円(予定)	～30人	18:00～20:00	中国茶房8 六本木店

※会議はネット中継を予定しております

3. ディスカッションの進め方

自治体や学校で教育ICTの活用を推進されている方、子どもとICTの分野で取材、執筆、発信されている方、子どもの安全確保の視点で発言されている方などを討論者として是々非々で自由闊達なラウンドテーブルディスカッションを行っていただきます。

聴講者として参加していただく方々には、ラウンドテーブルのまわりに着席していただきます。発言していただく時間も取りますので、是非討論にもご参加ください。



会場レイアウトイメージ

4. 参加対象者

- 教育委員会情報教育担当者、学校教員など教育関係者
- テーマに関心がある一般社会人、学生
- 日本教育情報化振興会 (JAPET&CEC) 会員

5. 参加申込方法

- ホームページ：日本教育情報化振興会ホームページ

URL：https://www.japet.or.jp/jo854sgug-964/#_964

参加申込：日本教育情報化振興会ホームページ専用サイトから申し込み

登録期間：2018年12月13日（木）まで

6. 主催等

主 催：日本教育情報化振興会 教育 ICT 課題対策部会

協 力：国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

7. プログラム

14:30～17:30 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) ホールにて

時間	内容 (※役職、敬称略 ※プログラムは予告なく変更になる場合があります)
14:00	(受付開始)
14:30	■開会 主催者挨拶 砂岡 克也 (日本教育情報化振興会・教育 ICT 課題対策部会 部会長) <総合司会>
14:35 ～14:55	■はじめに 砂岡 克也 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催趣旨／赤堀会長メッセージ ・ 登壇者の紹介 ・ 情報社会と教育情報化の展望、導入された学校 ICT 機器の利用率 ・ これまでの部会イベントで上がったポイント、論点

<p>14:55 ～16:00</p> <p>16:00 ～16:15</p> <p>16:15 ～17:15</p>	<p>■討論 「情報社会を生き抜くためのデジタル時代の教育のあり方と課題」 (150分) ～子どものIT端末との付き合い方と学びはどうあるべきか～ <u>ファシリテーター</u> (敬称略) 西尾 琢郎 (横浜市立桜台小学校 校長) ※民間出身校長</p> <p><u>パネリスト</u> (敬称略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 坂本 旬 (法政大学/アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター代表) http://bit.ly/2Dvi3cJ 大岩 ゆり (朝日新聞記者) https://www.asahi.com/articles/ASL7H569SL7HULBJ00D.html 狩野 さやか (教育系ライター) https://www.watch.impress.co.jp/kodomo_it/news/1105485.html 中山 順司 (プログライター) http://nlab.itmedia.co.jp/nl/series/8843/ 稲垣 俊介 (都立江北高校) https://inagaki-shunsuke.jp/ 尾上 浩一 (日本PTA全国協議会元会長、中央教育審議会第7,8期委員) 豊福 晋平 (国際大学 准教授) https://gakko.site/ <p>【第1部】<u>学習者用端末は誰にとってのツールか 子ども？学校？</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者端末は知識技能＝学力のためか、主体的・創造的・生産的活動のためか こどものICT基礎スキルはどこまで必要か、いつまでに誰が教えるべきか、どうすれば身につくか <p><休憩></p> <p>【第2部】<u>IT端末依存を回避して子どもの自主性に任せるには？</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 依存が引き起こした事象の実状 デジタル・シティズンシップとは？ 学校で学習者端末を子どもの日常ツールにすることは可能か
<p>17:15 ～17:25</p>	<p>■まとめ 豊福 晋平 (国際大学 GLOCOM)</p>
<p>17:25 ～17:30</p>	<p>■閉会 砂岡 克也 (富士ソフト/教育ICT課題対策部会長)</p>

【懇親会】 18:00～20:00 / 中国茶房8 六本木店

時間	内容 (※役職、敬称略)
18:00	乾 杯： 西尾 琢郎 (横浜市立桜台小学校 校長)
19:50	中締め： 真下 和之 (日本教育情報化振興会)